

## 第 33 回スパズム・シンポジウム世話人会議事録

日 時：平成 29 年 3 月 16 日（木）7：00～

会 場：リーガロイヤルホテル大阪「桂の間」

出席者：29 名

### 1. 訃報 顧問 太田 富雄 先生（黙祷）

### 2. 第 33 回会長挨拶

森 健太郎 先生（防衛医科大学校）がご挨拶された。

### 3. 事務局報告（山口大学 石原 秀行 先生）

会員状況報告・会計報告がなされ承認された。

会員数・会費納入率について大幅な減少等はなく例年通り推移している。収支についてもここ数年は、少額ではあるが増加傾向にある。

また今回、収入の部において「第 32 回スパズム・シンポジウム(STROKE2016)」補助金 50 万円の返還がなされた。

### 4. 第 32 回開催報告

第 32 回会長 糟谷 英俊 先生（東京女子医科大学東医療センター）より開催報告がなされ、承認された。

第 32 回も収支決算報告については、脳卒中：脳卒中の外科学会&スパズム・シンポジウムで 5：5 の割合で予算計上されたことのご説明をされた。開催内容と予算の面、ともに順調に終了したことをご報告された。

収支報告について、日本脳卒中の外科学会 理事長の富永先生より、今後も 1：1 の予算分割で行い、将来的に 2019 年から脳卒中学会と脳卒中の外科学会の連結決算の方向に進む予定であることを付け加えられた。

司会進行の鈴木倫保先生より、スパズム・シンポジウムに関しては法人化されていないので、脳卒中学会と脳卒中の外科学会に追従していくことを再確認された。

### 5. 顧問退任

貫井 英明 先生（山梨大学 名誉教授）と、永田 泉 先生（小倉記念病院 院長）が退任された。

### 6. 世話人退任 — 新顧問への就任

永廣 信治 先生（徳島大学）が新顧問として承認された。

### 7. 新世話人選出

推薦状・略歴の回覧の後、坂本 誠 先生（鳥取大学）、森岡 基浩 先生（久留米大学）の 2 名が新世話人として推薦され、承認された。

### 8. 次期会長挨拶

第 34 回会長 佐々木 達也 先生（青森県立中央病院）がご挨拶された。

2018 年 3 月 15～17 日福岡にて開催。共通テーマは「識る・診る・救う脳卒中」、スパズム・シンポジウムとしてのサブテーマは「スパズム 0 の未来へ」。

## 9. 次々期会長挨拶

第 35 回会長 石川 達哉 先生（秋田県立脳血管研究センター）がご挨拶された。  
2019 年 3 月 21~23 日横浜にて開催。共通テーマは「進化を遂げた脳卒中医学・医療の今後の展望」。

## 10. 次々々期会長選考

司会進行の鈴木倫保先生より、第 36 回会長について事前に将来構想委員会メンバーにて協議した結果、鈴木 秀謙 先生（三重大学）を推薦することをご報告され、本会にて承認された。鈴木 秀謙先生がご挨拶された。

## 11. 第 8 回スパズム・シンポジウム優秀論文賞について

第 8 回優秀論文賞の候補論文、選考委員、受賞論文の報告が行われた。  
基礎研究部門は、藤本 昌志 先生（済生会松阪総合病院）、臨床研究部門は松田 尚也 先生（弘前大学）に決定したことを報告した。

## 12. 代表世話人及び事務局交替の件

現代表世話人 鈴木 倫保 先生より、代表世話人と事務局の交替の件について、ご説明。  
2017 年 4 月より、新代表世話人及び新事務局への移行をご提案。  
前もって、将来構想委員会にて協議の結果、岡山大学 伊達 勲 先生に次期代表世話人をお願いしたい旨が伝えられ、本会にて承認された。  
続いて、伊達先生がご挨拶された。

## 13. 将来構想委員会メンバーの交代について

会則第 7 条にてメンバーについては年次交替のルールとなっており、今回新しい「選出メンバー」の決定が必要となるため、新代表世話人となられた伊達先生に推薦をお願いし、弘前大学の犬熊 洋揮 先生を選出され、賛同を得られたので、メンバーが以下 5 名で決定した。

- ・森 健太郎 先生（防衛医科大学校） 前期会長
- ・佐々木 達也 先生（青森県立中央病院） 今期会長
- ・石川 達哉 先生（秋田県立脳血管研究センター） 次期会長
- ・犬熊 洋揮 先生（弘前大学） 世話人会選出メンバー
- ・伊達 勲 先生（山口大学） 事務局代表

## 14. その他

糟谷 英俊 先生（東京女子医科大学東医療センター）より、第 32 回会長として機関誌「脳血管攣縮」製作に当たられた上で、投稿規定に関していくつか調整が必要であることをご指摘いただいた。

司会進行の鈴木倫保先生より、これまでは各回の会長の自由裁量で進めてきている部分が多く、今後は規定内容について改善していくことが課題であることを説明された。

森 健太郎 先生（防衛医科大学校）より、機関誌 vol.33 に関して間違いのないよう取り決めたいとのご意見があり、機関誌 vol.33 の投稿論文については主催校の「防衛医科大学校脳神経外科」森 健太郎 先生宛に送ることが決定した。